

文部科学省
新時代に対応した高等学校改革推進事業
令和7年度 実施状況報告書



伊丹市立伊丹高等学校

市立伊丹高校の挑戦

文部科学省 新時代に対応した高等学校改革推進事業

令和3年1月の中央教育審議会答申において提言された普通教育を主とする学科の弾力化（普通科改革）や教科等横断的な学習の推進による資質・能力の育成を推進し、探究・STEAM教育、特色・魅力ある文理融合的な学び、今後の社会に求められるデジタル人材育成等を実現するため、令和4年度から設置が可能となった新しい普通科の設置を予定している学校の取組を推進するとともに、遠隔・オンライン教育等を活用した新たな教育方法を用いたカリキュラム開発等のモデル事業を実施する。加えて、新学科における学びや教科等横断的な学びを実現するためには、地域、大学、国際機関等との連携協力、調整が必要であり、その役割を担う「コーディネーター」について、その育成や活用を支援するための全国プラットフォームを構築する。

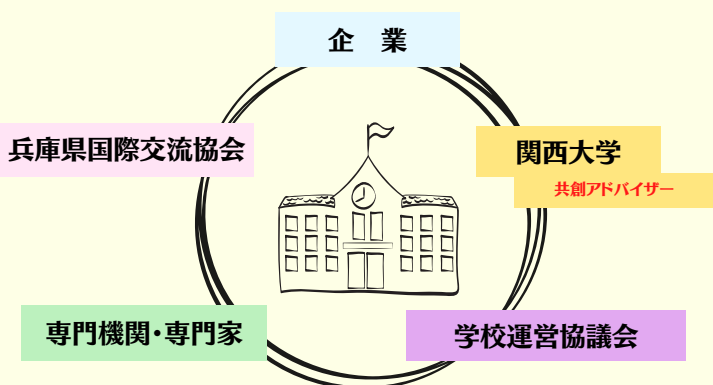
普通科改革支援事業

令和4年度より設置が可能となった新しい普通科を設置する予定の高等学校等に対し、関係機関等との連携協力体制の整備や、コーディネーターの配置などの支援を行い、新学科設置の取組を推進することで、探究・STEAM教育や特色・魅力ある文理融合的な学びを実現する。

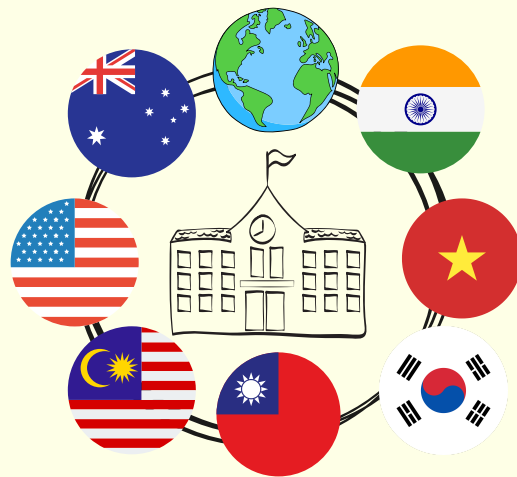
グローバル共創科（GCC）

令和7年度に「グローバル・コミュニケーションコース（国際文化系）」から改編しました。多様な外部機関と連携しながら、学際的（主にグローバル）な探究学習を軸とする普通科（学際領域に関する学科）です。世界の多様な人々や進化するAIと共創するために、「新時代に対応した学び」に挑戦しています。

社会とつながる



世界とつながる



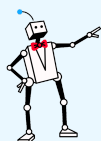
グローバル共創科で育成を目指す資質・能力



グローバル化



AI・ロボットの進化



実用的英語力

ツールとして英語を使える能力

国際感覚

異文化を理解し、複眼的に考察できる能力

革新力

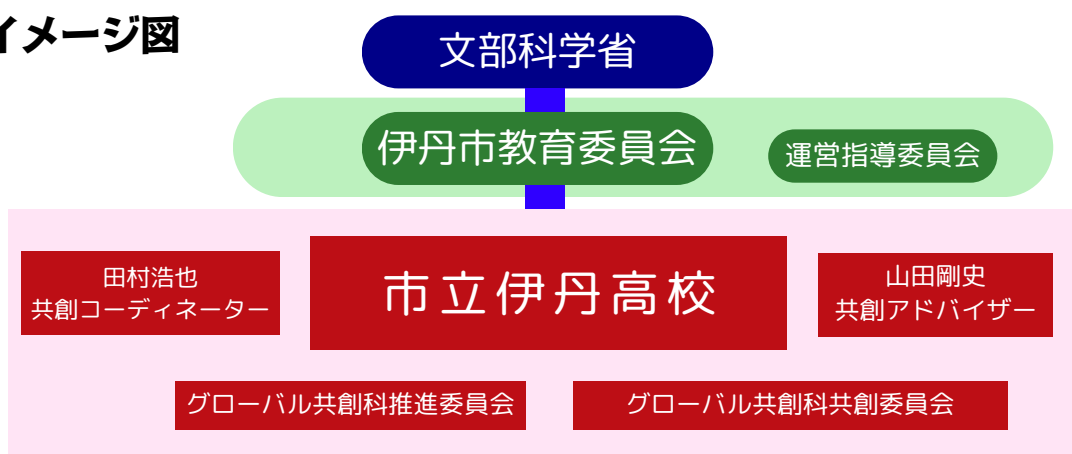
新たなアイデアを創出する能力(0→1の力)

伝達力

アイデアを相手に適切に伝える能力(9→10の力)

令和7年度実施体制

実施体制イメージ図



運営指導委員会

伊丹市教育委員会が、学識経験者等とともに、本校の高等学校改革に関する研究開発を推進するために設置。

- ①令和7年8月
- ②令和8年1月に委員会を開催。

GCC推進委員会

本校が、連携する外部の専門家や学校運営協議会の委員等とコンソーシアムを形成し、グローバル共創科の研究開発の推進のために設置。

- ①令和7年9月
- ②令和8年3月に委員会を開催。



共創コーディネーター

令和7年度から、田村浩也氏に委嘱し、それぞれの探究テーマに応じて、生徒と外部の専門家を接続。年間4回の「社会とつながる講演会」を実施。中学校への探究学習の広報活動を実践。

共創アドバイザー

令和6年度から、関西大学・山田剛史教授に委嘱し、生徒への特別講義を年間5回実施。また、年間を通して、グローバル共創科の探究学習・教育活動への助言・指導。

共創コーディネーターの役割

1. 通常活動(GC・GCCの探究授業の補助)

- ① 各学年(1、2年は全学期、3年は2学期)の探究授業に入り指導、改善等
- ② 2年「マイ探究」における探究面談(授業外での希望者への1on1含む)
- ③ 2年「マイ探究」における各生徒と外部機関、専門家との連携補助(生徒希望が大前提)
- ④ 3年面接補助・指導(探究にかかわる大学入試等において)
- ⑤ 関係機関との連携時サポート(訪問対応、生徒引率、生徒指導等)
- ⑥ 海外高校生との連携時サポート(訪問対応、生徒引率、生徒指導等)
- ⑦ 他校探究授業/研修会等に参加・研究
- ⑧ 外部探究イベントへの参加、生徒引率

2. GC・GCCのプログラム充実に向けて

- ① GCC Camp、GC・GCC Joint等、特別プログラムの実施補助
- ② 伊丹探究フォーラムの企画・実施補助、プログラムの実施補助(山田剛史共創アドバイザーとの打合せ、ポスター制作等含む)
- ③ 外部講師による特別講演会の企画・実施
- ④ 特別講演・授業等の広報・告知
- ⑤ 特別講演・授業等のプレスリリース及び当日のプレス対応



3. GC・GCCの探究周知活動・入試広報等

- ① 伊丹市内全中学校への訪問実施 ※GCC入試広報ではなく、探究授業の可能性や情報共有
- ② 他高校との連携(県立伊丹高校訪問)
- ③ 運営指導委員会への出席
- ④ GCC推進委員会の開催準備・運営

Reflection

①コーディネーターとしての活動

2学期からの「マイ探究」開始に先立ち、1学期より外部専門家との連携を実施(全11件)。夏休みからは希望者への探究壁打ち面談を行い、開始後も授業外での1on1や問いづくり支援を継続。また外部講師による講演の企画・招致を実施した(全4名)。

②外部連携と探究伴走で大切にしたこと

連携においては、生徒の動機や熱意を確認した上で橋渡しを行い、双方に無理なく意義ある形となる調整に注力した。伴走者としては、生徒の不安を期待へ変える関わりを意識。思考を整理し、自ら一歩踏み出せるサポートを特に大切にした。

③成果と課題

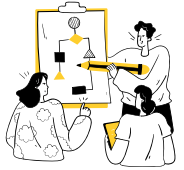
外部との接点により、学びを深め成果を飛躍させた生徒が多々見られた。一方で主体性を尊重したためあまり関われなかった生徒もあり、支援のバランスが今後の課題である。

社会とつながる探究学習（1学年GCC・1単位）

令和7年度テーマ：お金
探究単位：個人

連携先：株式会社マネイク（キャサリンとナンシーの金融教育）
株式会社大阪取引所

MISSION



「ウェルビーイングなお金の使い方 ～ 〇〇歳で〇〇〇万円」

探究学習に関わる主な取組

1 学期

山田剛史共創アドバイザーによる特別講義「探究学習ってなんなん？おもしろいん？」
キャサリンとナンシーによるキックオフ講義「ウェルビーイングなお金の使い方」
グラフィックデザインツール Canvaの導入
クラス内発表会「ウェルビーイングとは？」（2分間・ポスター1枚・発表動画提出）

マインドマップでアイデアを広げる



2 学期

キャサリンとナンシーによる特別講義「ミッションの提示」
大阪取引所による出前講座「ブルサ（ボードゲーム）を用いて社会や経済の動きと株価」
大阪取引所探究訪問・特別講義「シミュレーターを用いて投資体験」
クラス内発表会「〇〇歳の時に〇〇〇万円準備するには？」（5分間・スライド6枚・発表動画提出）
1・2年GCコース・グローバル共創科 探究発表会

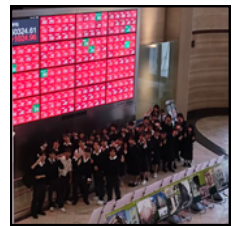
3 学期

クラス内探究発表会【英語版】（5分間・スライド・発表動画提出）
ALTへの探究発表会【英語版】（5分間・スライド・発表動画提出）

クラス内発表会



大阪取引所探究訪問



生徒による1年間の振り返り（形式は自由）

・高校生になって初めて探究をして本当にわからないことばかりでした。「〇〇歳までに〇〇万円貯める」というのを聞いた時、そんなことわからない、難しいと思ってできるかとても不安でたまらなかつたです。始めの方はどれが正解かが分からなくて、なかなか探究が進みませんでした。でも、自分のwell-beingが何かを考えると自然と自分のやってみたいことや好きなことがわかって、そこから先生とワンオンワンをすると鋭い質問や良いアドバイスをくださって、その質問の答えを考えたりアドバイスを活かす方法を考えたりしているうちに、今、自分がしていることが「探究」なのだ気が付きました。「正解」を探すことばかりしていたけど、探究に正解なんてものではなくて自分なりに本気で悩んで考えて、その先にあるものがきっと私だけの答えなのだと思います。正解か不正解か人から評価をもらうことはできるけどそれがすべてではなく、あくまでも探究をより良くするための通過点だと気が付きました。

・もうめっちゃ頭使ったし、自分でも「何やコレ」って思うこともかなりあったけど、自分なりに頑張ったと思います。やっぱりテーマが難しいだけあって、その分苦戦したけど、それよりもまず結構楽しかったです。今までの自分だったら、難しかったらすぐに諦めて他の人に任せきりだったから、この半年以上GCC生として活動してきた中でとても成長したなど感じています。「できない～。悔しい。もうアカンわ。」みたいなものが「えっ！ムズっ！燃えてきた！」みたいな感じになってるのがよくわかります。結果的には、他の人の発表を聞いたら自分は全然まだまだやなこと思うことがたくさんあるけど、それでもすごい楽しかったし、成長できたし、やりがいをすごい感じました。自分の中でこの一年間の探究は、最上級に成長してきたものだと思います。

Reflection

成果

・全員のテーマが同じ「一斉探究」を通じて、生徒は探究の基礎スキルを身に付けることができた。特に、粘り強さと伝達力が育まれた。

・探究を通じて、生徒は自分の将来の「お金」と「ウェルビーイング」について深く考えることができた。

課題

・教員とのワンオンワンや生徒同士の間接発表等を実施したが、個々の生徒の創造性や独自性をさらに高められる教員のファシリテーションスキルの向上が必要である。

生徒の発表スライドの一部



学びをつなげる探究学習（2学年GCコース・2単位）

1学期

令和7年度テーマ：科学
探究単位：グループ

連携先：伊丹市立こども文化科学館



MISSION

「子どもたちを知らない世界に連れて行ってあげる」（プラネタリウム）

「子どもたちに見えないものを見せてあげる」（ちょこっとサイエンス）

探究学習に関わる主な取組

伊丹市立こども文化科学館訪問・体験

伊丹市立こども文化科学館の職員によるアドバイス・コンサルテーション（6回）

現地での発表会（約30名の来館者（主に子どもたち）に対して）

現地での発表会



生徒による1学期間の振り返り（形式は自由）

・今回、初めてグループで探究をしてみて一人で探究をしていたときとは違う面白さがあるなと思いました！自分の中になかったアイデアが出てきたり、意見を共有し、指摘し合えたり、グループですることによって1人の時より何倍も深く掘り下げることが出来て楽しかったです。また、私がグループ探究でいちばん苦戦したと思うのは「みんなが納得するものにする」という点です。一人一人が自分のやりたいことやイメージをもっているからぶつかることもあって、探究のモヤモヤだけでなく、意見をまとめてみんなが納得するものにするには、どうしたらいいの？！というモヤモヤも生まれました。自由に作ったグループじゃなかったからたくさんモヤモヤもあったけど、だからこそ面白い探究になったし、今思うとそれもこの探究にとって良い経験だったなと思います！

・純粹な気持ちとしてプラネタリウムのアイデアを出し、練習し、実際に見てもらうのが楽しかったです。そして、私の班は特に誰かが頑張りすぎるのではなく、「みんなで」という意識が強かったと思います。だからこそ、色々な視点を取り入れることができて良いものになったと思います。メンバーも教室ではそれほど話さない人たちとなることができ、活動の中で新たな一面を知り、仲良くなることができました。探究の授業で初めて班でひとつのものを取り組んだ時の大変さや気持ちを共有できる喜びを味わいました。私が今でも心に残っている言葉は、「自分たちだけが満足していないか」です。この言葉をきっかけとして、進んできた道を振り返って確認することができました。

・私たちのグループはみんなが意見を言って、誰かが我慢をすることがなかった（少なかった）と思います。どんな実験をするかのモヤモヤ、どのように魅せるかのモヤモヤ、意見を出しても採用されないモヤモヤ、探究にはたくさんのモヤモヤがあって、どれも必要なものでした。

探究コラム

ワクワクする探究の共通点

1 内発的な動機に基づいた「問い」と「行動」のスピード感

日頃からアンテナを高く張り、自らの興味から湧き出した強力なRQを持つことで、迷いのない素早いスタートと、外部へ自ら連絡を取るように主体的な行動力が生まれる。

2 現場での「仮説検証」と「フィードバック」により深化

机上の空論に留まらず、実際に動いて仮説を検証するプロセスを重視し、ワンオンワンの対話や外部からの声を素直に取り入れて改善を繰り返すことで、探究の内容に圧倒的なりアリティと深みが増していく。

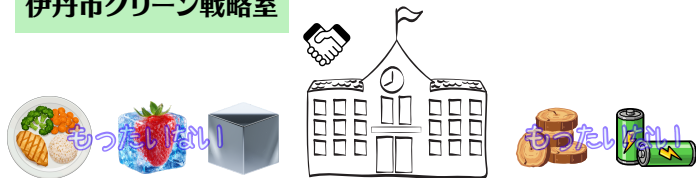
3 結論を疑い、サイクルを回し続ける「縦の深まり」

一度出した結論に満足せず、二度、三度と探究のサイクルを回して問い直すとともに、ロードマップで道筋を可視化することで、文系の探究でも迷子にならずに論理的で一貫性のある「自分なりの解」に到達できる。

令和8年度から新規の探究プログラム

ITAMI GREEN CO-CREATION

伊丹市グリーン戦略室



キーワード：「大人と生徒が学び合う」「入り口は低く、出口は高く」「問いから始まる」
「自分・自分たちを意識する」「生徒が選択・判断する」
「完璧を目指さない（大人）」「ホントにこれで良いのかなあ、を繰り返す（生徒）」

テーマ：「企業のもったいないを解決する」

連携先：伊丹市グリーン戦略室、
伊丹市内企業5社
（社員食堂・冷凍食品・木材・金属・エネルギー）

概要：企業プレゼン→生徒が企業を選択・訪問→企業に共感

↓
定期的な企業とのコンサルテーション←グループ探究開始

↓
伊丹市役所で探究発表会→環境コンソーシアムでの発表



学びをつなげる探究学習（2学年GCコース・2単位）

2・3学期

令和7年度テーマ：なし（マイ探究）
探究単位：個人/グループ（選択）

連携先：関西大学・多様な専門家



MISSION

「各自のモチベーション×リサーチクエスチョン×グローバル」

探究学習に関わる主な取組

1年生3学期

山田剛史共創アドバイザーによる特別講義「『問いづくり』を経験する」

2年生2学期

教員、ALT、関西大学インターン生等とのワンオンワン

京都探究フィールドワーク

クラス内中間発表会

1・2・3年GCコース・グローバル共創科中間発表会

3学期

クラス内発表会（スライド・発表動画提出）

外部での発表（伊丹探究フォーラム、東山高校（京都府）、ひょうご探究フェス、兵庫県高等学校探究活動研究会等）

クラス内探究発表会【英語版】（5分間・スライド・発表動画提出）

ALTへの探究発表会【英語版】（5分間・スライド・発表動画提出）

クラス内発表会



京都探究フィールドワーク



生徒の発表スライドの一部



生徒による2学期間の振り返り（形式は自由）

・今回の探究で本当に色々な人と関わりながら、進めていけたのは貴重なことだったと思います。自分から外部の人に相談したり、いつもの授業には関わっていない先生に話したり、アンケートを取るために色々な人に意見を貰ったりして、一人で探究と向き合うと言うよりは色々な人と交わりながら良いものをつくっていけました。モヤモヤを解決するために頑張っていたのと同じように、こうやって色々な人と関わるといってもこれから役に立つ力だと思いました。また、中でも友達と関わりながら探究を進めることが多かったです。自分が行き詰まる時に壁打ちとして話を聞いてもらうこともたくさんありました。それと同じくらいか、もしくはそれ以上に自分が友達の探究の相談に乗ったり、友達だから気を遣って肯定して終わりではなく、しっかり自分の意見やその子とは違う視点での考えを伝えて、どうしたら友達にとって良い壁打ちになるか、探究しながら実行できました。1年生の時は自分の探究でいっぱいだったけど、友達の壁打ちになったりすることで自分の探究に繋がる何かを得れることもあると思うし、自分が中間発表などで思っていることをしっかり伝えてくれるフィードバックを貰った時にすごい助かったと思ったので、2年生の探究ではしっかりそれもできて良かったです。何ヶ月もかけて探究して失ったことは何もないし、得たことが沢山あって自分の強みになったと思います。

・私は「マイ探究」を通して、色々な人と関わって、色々な考え方を知って、とても成長できたし、生きやすくなりました。私のテーマは誰にでも当てはまりやすい内容だと思うので、この探究で出した答えを本当に実現して、多くの人に聞いてもらい、誰かの支えになればいいと思います。こういう考え方になったのも、きっとこの探究をしてきたからです。改めて人との繋がりの大切さに気付かされるマイ探究でした。

・探究が苦手でしんどい時期もありましたが、自分の将来につながる探究だったので最後までやりきれたと思います。また、将来、この職業に就きたいという気持ちがとても高まった期間でした。この探究でのリサーチクエスチョン(RQ)の検証結果は、仮説とは「違う」という結論になりましたが、将来自分が〇〇になって自分で確かめるまでを自分の探究のゴールにしたいと思っています。確かめた結果が仮説通りでなければ、そうしていけるように努力したいし、仮説通りだったらそれを維持していきたいです。しっかり最後まで自分の探究をやり遂げます。

・周りに支えられていることや人と関わっていくことの大切さに気付けたという面では、「自分で」RQを立てて、「自分が」社会や世界とつながっていくこのマイ探究は、私にとってとても大きな気付きを得られた活動になりました。「あと一歩が踏み出せない」がなくなったことが私の成長です。

ラジオを探究した生徒の振り返りラジオ番組



探究のプロセスと
その振り返りにこそ
真の学びあり

未来とつながる探究学習（3学年GCコース・1単位）

2学期

令和7年度テーマ：未来
探究単位：個人

連携先：関西大学
探究数：10回



MISSION

「あなたは社会や世界とどのように関わりながら生きていきますか」

探究学習に関わる主な取組

- 山田剛史共創アドバイザーによる特別講義「自己理解とキャリアの心理学」
- ホームホメタイム（3年間を共に過ごしたクラスメイトを褒めまくる）
- 教員、ALT、関西大学インターン生とのワンオンワン
- 社会とつながる講演会（佐々木美香氏）
- クラス内発表会
- 1・2・3年GCコース・グローバル共創科発表会

生徒の発表スライドの一部



真剣に受験勉強に励む生徒にこそ、真剣に自らの「未来」を探究する価値がある

市立伊丹高校GC・GCCが探究学習で大切にしていること

TIPS

大学入試のための探究ではない

探究は他人を喜ばせるためでも、社会的な意義のためでもなく、探究者自身のために行われるべきである。探究の質が上がったとしても、生徒が熱中できないものになってしまうとは意味がない。

「育成する資質・能力」が土台である

本科にて育成を目指す資質・能力（特に「実用的英語力」と「国際感覚」の育成）と有機的に結びつくよう体系的（システム）・系統的（流れ）に独自の探究プログラムをデザインする。

リアル感がある（社会とつながっている）

生徒自身が社会の一員として、他者と協力して価値を生み出す体験を通して、社会の「お客様」ではなく、社会の「創り手」であることを実感する学びを積み重ねる。

「活動あって学びなし」としない

探究のプロセスにこそ、生徒一人ひとりの貴重な学びが凝縮されているため、各授業後に「学びの記録」を、プロジェクト終了時には「振り返り」（形式自由）を行い、一連の成長を表現する。

「私」を大切にする

探究者の価値観、切実な動機、個人的な経験を反映させることにより、探究の過程・成果が探究者の生き方に変化をもたらし、熱意が聴き手にも伝わり、聴いた人の行動を動かす、心に残るものとなる。

"LOVE YOUR MISTAKES!" "DON'T BE LIKE A ROBOT!"



世界とつながる探究学習（1・2学年GC・GCC・1単位）

連携先：兵庫県国際交流協会、株式会社With The World
伊丹市教育委員会、日本台湾交流協会

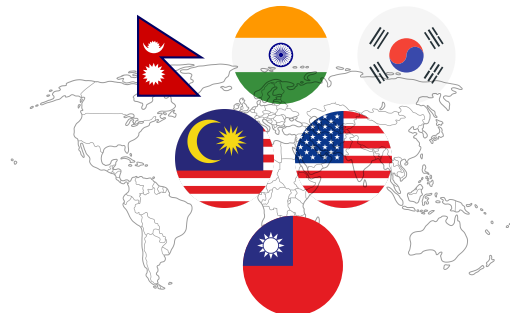
交流の目的

国際感覚：国際理解・異文化理解とともに、より広い視野で多角的に物事を考察する
実用的英語力：英語をツールとして、新たな考えや情報を得たり、伝えたりする



1 学期

香港の高校生との対面（Hong Kong, 港大同学会書院）
韓国 of 高校生とのオンライン交流（Korea, Namak High School）
インドの学生との対面交流（India, Republic Central College）
アメリカの高校教員との対面交流（America, Bella Vista High School）
ヨーラン・バレン氏による特別講演会（Belgium）
Hyogo高校生チャレンジ留学「海外武者修行」1名合格・留学（Australia）
日韓高校生交流プログラム（Korea, Namak High School）
台湾からの留学生の受け入れ（日本台湾交流協会）



2 学期

オンライン探究交流（1年GCC生:Afghanistan, Turkey, Indonesia 2年GC生:Indonesia）
佛山市学生代表団との対面交流（China, 佛山市）
マレーシアの高校生との対面交流（Malaysia）
韓国 of 高校生とのオンライン探究交流（Korea, Namak High School）

インドの学生との対面交流



3 学期

「日本の冬」プレゼン動画製作・共有（Korea, India, America）
ネパールの小学生とのオンライン交流（Nepal, Himalayan Glory English Secondary School）

交流の形式

オンライン交流：各自のタブレットからオンライン会議ツールに参加してグループに分かれて交流する
オンライン探究交流：各自の探究テーマに関する質問・調査・概要発表を実施する
オンライン時差交流：オンライン掲示板アプリを用いて、動画を通じて交流する
対面交流：交流人数に応じてゲーム、クイズ、文化紹介、探究調査等をしながらか交流する
留学生の受け入れ：2年GC生の一員としてGCコースのカリキュラムで学校生活を送る



グローバルな課題を探究するのではなく、自分事の問題をグローバルな視点で探究する

国際交流の学び

・初めて外国の人と話して、最初はとても緊張して通じなかったらどうしようとか、言っている意味がわからなかったらどうしようとか、楽しみだけ心配でした。でも、実際に話してみても意外と自分の言いたいことは伝わって、相手の言っていることも100%ではないけど、なんとなく分かって時間が一瞬で過ぎました。次に活かしたいことは、もっと自分から積極的に話しかけることです。

・マレーシアの生徒たちもやっぱり日本の生徒たちより積極的だと思った。日本の学生たちは交流する部屋に入る時、まずキョロキョロしながら自国の友達と喋って席につくというのが多い気がするが、マレーシアの学生たちは自分の席と自分が喋る人を見つけると、すぐに「Hi〜!」などと話しかけて仲良くなろうとしていることに気付いた。今回の交流を通して、人と、特に海外の人と仲良くなるためには、まず自国の人と話すのではなく、交流相手に笑顔(口角と眉毛をあげて!)で話しかけることが大切だと感じた。今回の交流では自分の探究の話ができなかったのが、仲良くなってSNSを交換した子に自分の探究のことについて話すために連絡を取ってみようと思う。日本人とは違う視点の意見が出てくるかもしれないので、楽しみです!自分とは違う視点の、面白くて参考になりそうな意見があればスライドに取り入れてみようと思う。

日韓高校生交流プログラム



探究学習を軸とした独自の取組

7月 Global Co-Creation Camp (GCC 1年生対象@琵琶湖グランドホテル)

1日目 英語の日 ALT 5名による英語ワークショップ

2日目 探究の日 山田剛史共創アドバイザーによる探究ワークショップ

【GCC Campの学び】

・私は二日間で「問題を先回りして考える」機会が多かったと感じています。それを海外との交流や探究に繋げていきたいです。意見をどうやって英語で伝えようとかどの表現の方が伝えやすいのだろうと考えたり、ディベートやプレゼンをしたりしながら、聞き手が受けとりやすくてできるだけ多くのことを伝えるにはどうしたら良いのか考えることができたので、それらをプレゼン資料作りや日本のことを紹介するときなどで活かしていくことを心掛けたいです。

・GCCキャンプでは自分から一歩踏み出す大切さ、“Love your mistakes”の大切さを学びました。今回、私は一歩を踏み出すことができませんでした。とにかく自信がなくて失敗するのが怖いので二期からはその精神から叩き直していきたいです。

GCC Camp 2025



GC・GCC JOINT



12月 GC・GCC JOINT (GCC 1・GC 2・GC 3年生@本校)

協働学習と探究発表会を中心としたGCコースが縦でつながる学び合いの2日間

【GC JOINTの学び(1年生)】

・先輩たちのすごさに驚いた。京都探究フィールドワークで自分で調べた1次データや、ネットから引用した2次データなど、様々なデータを提示し、比較し、そこから考えられることを話していてすごいと思った。私自身の探究を振り返ると、データなどをあまり使えていなかったり、考察が足りていなかったりして、先輩の探究から得るものが多かったと感じた。また、先輩と共同作業したときに、リードしてくれながらも関わりやすい雰囲気を作ってくれてありがたかった。こんな先輩になりたいと思った。

【GC JOINTの学び(2年生)】

・2日間を通していろんな人と繋がる大切さに気付きました。今までの探究は、先生や友達など限られた人がとても多かったので、人と繋がることで得られるものがとても大きかったように感じました。また、去年と違って、引っ張っていく存在になったからこそ、1年生のみんなに伝えることもできたし、自分自身が成長したんだと感じました。

・3年生の探究はGCジョイントの中で1番心を動かされました。たった数分間だったけど、先輩の目標やそのために逆算してこうしていくとかちゃんと道筋があって、考えて探究してる発表を聞くことができました。自分が聞いた先輩の発表は、とても格好良く、すごく興味を惹かれました。自分についての探究だからインターネットから持ってきた科学的根拠があるとかそういうのではないけれど、本当に心を動かされました。正直、大学のこともあまり調べてなかったり、頑張ることが疎かになってしまったりしてたけど、先輩と同じ職業に就きたいと思ったとかそういう訳ではないけど、かっこよくなりたいし逆算して努力して行きたいなと思えました。本当に先輩の探究聞いて良かったなと思えました。

GC・GCC JOINT



GC Seminar



12月・3月 GC Seminar (GC 2年生対象@本校他)

株式会社ANAビジネスソリューションによる対人コミュニケーション研修

通年 社会とつながる講演会 (GCC 1・GC 2年生・GC 3年生@本校)

「自分の未来を切り拓こう」(佐々木 美香さん)

「きくということ」(山下 義弘さん)

「地球に何しに来たん？」(佐原 総将さん)

「表現力を磨くワークショップ」(市村 啓二さん)



社会とつながる講演会



【社会とつながる講演会の学び】

・日本という国に産まれたことは本当に幸せであると再び知ることができました。靴磨きトラベラーになる予定はありませんが別の方法で世界に貢献できるように生きていきたいと思えます。(「地球に何しに来たん？」の学び)

・初めてのワークショップタイプの講演会だったのですがとにかく楽しかったです!!でも実はその「楽しい」の中には大事なキーワードが散りばめられていて、講義を受けていて楽しみながらこれからの社会で確実に大事に持っておきたいものを伝えていただいたと思います。特に今回、自分の中の「表現」に対しての認識が変わった時間でした。私にとっての表現は「絵や音楽などの作品を作る」「舞台」「発表」のようなイメージだったのですが、この講義を受けて「表現」は挨拶や会話のような「自分なりの思いを伝えること」と教えてもらって今までよりもずっと手軽で楽しめるものなんだ!と感じました。表現と言われるとどうしてもプレッシャーを感じたり生成AIとかを使って正解をさがしてしまいがちな世の中な気がしますがそんな時代の中でも自分の思う本当の思いを大事に、そして勇気を持って広げていける人になりたいと思いました。(「表現力を磨くワークショップ」の学び)

探究の輪を広げる取組

**我々のミッションは、自校生徒の育成に留まるものではない。
「縦（中高の連携）」と「横（他の高校）」に探究の輪を広げることである。**

1. 伊丹市内のすべての中学校と「探究」の情報共有

探究活動の進展には中高連携が今後不可欠との観点から、伊丹市内の全中学校を訪問。本校の探究授業の取組紹介だけに留まらず、各中学校の取組状況や課題も共有しあうことで、地域全体での探究の可能性を模索した。

2. 阪神地区の中学校の教員に「探究」の授業公開

11月末に中学校教員へGCCの探究授業を公開し、リアルな様子を共有。参加した先生方からは、生徒が臆することなくイキイキと探究に取り組む姿が印象的だったとの評価を頂き、活動の実際や熱量を届ける機会となった。

3. 伊丹探究フォーラムの開催

本校主催「伊丹探究フォーラム」を昨年に引き続き開催。中高・公私の枠を超え、120名以上の方に参加頂き学びの成果を共有。ポスター発表にも8校23組が参加。主体的に考え抜いた探究成果発表は大人たちに大きな感動を与えた。

実施内容

主催：伊丹市立伊丹高校 共催：伊丹市教育委員会

開会挨拶

基調講演 山田剛史共創アドバイザー

ポスターセッション

市立伊丹高校・県立伊丹高校・県立尼崎高校・府立豊中高校
府立泉北高校・府立木津高校・神戸龍谷高校・神戸常盤女子高校

実践紹介 市立伊丹高校・県立伊丹高校・伊丹市立北中学校

パネルディスカッション 市立伊丹高校・県立伊丹高校・伊丹市立北中学校

閉会挨拶

「探究の取組が未来のウェルビーイングを創る」



本校生徒・他校の高校生・中学生
中高教員等、計約120名が参加

4. 高校生と大人が「探究を学ぶ会」を開催

山田共創アドバイザーを迎え、GCCと普通科が共に学ぶ「探究を学ぶ会」を開催。普通科へも探究文化を広げる試みとして、代表生徒4名が探究成果を発表。「私の好き」から発し、原稿に頼らない力強い発表に刺激を受けた生徒も多い。

実施内容

開会挨拶

特別講演 山田剛史共創アドバイザー

生徒発表+教員の学びを共有

中学校教員・伊丹市関係者・
大学生等、計約20名が参加



生徒が探究サイクルを回すために効果的な伴走手法

One On One **探究の前期～中期に有効** **縦：本人の深掘り**

聴く姿勢、質問の仕方、生徒の主体性の尊重、心理的安全性の確保、メタ認知を促す
アイデアを指導する「教師」ではなく、生徒の声を映し返し、新たな発想を生む「最高のカベ」となる

Feedback **探究の後期に有効** **横：他者や社会との接続**

成果の価値付け、多角的視点の注入、「次」への未了感の醸成、メタ評価の支援
完成した探究を評価する「審査員」ではなく、次なる問いを誘発する『最高の観客』となる

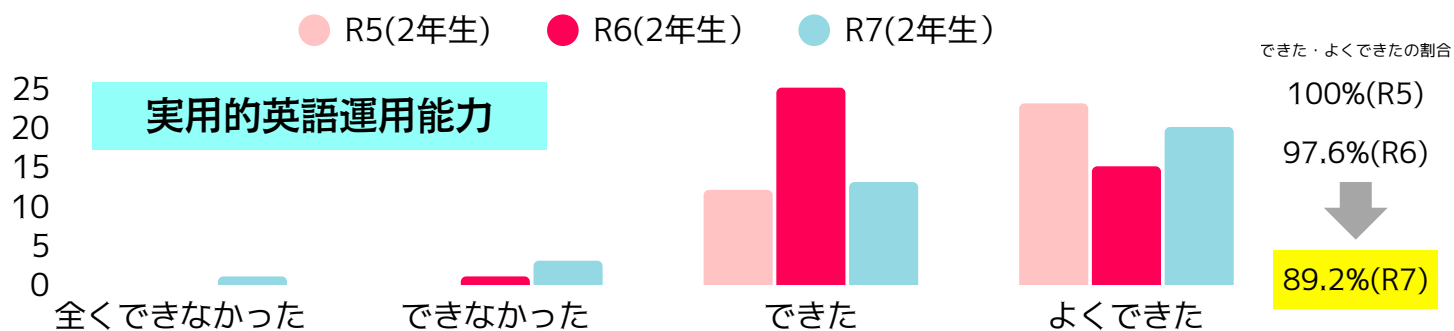


TIPS

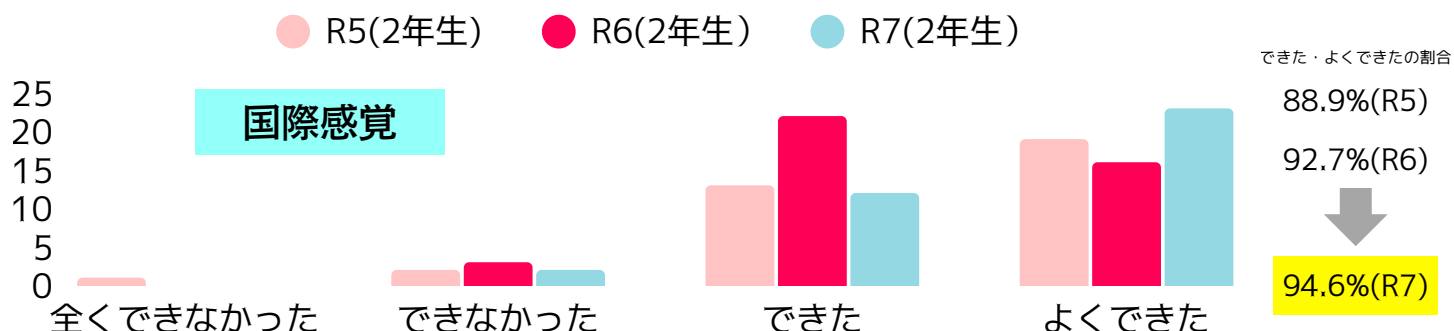
令和7年度生徒アンケート ～令和5年度・6年度との経年比較～

Q. 英語を使って新たな知識や考え方を得る力が身についたか。

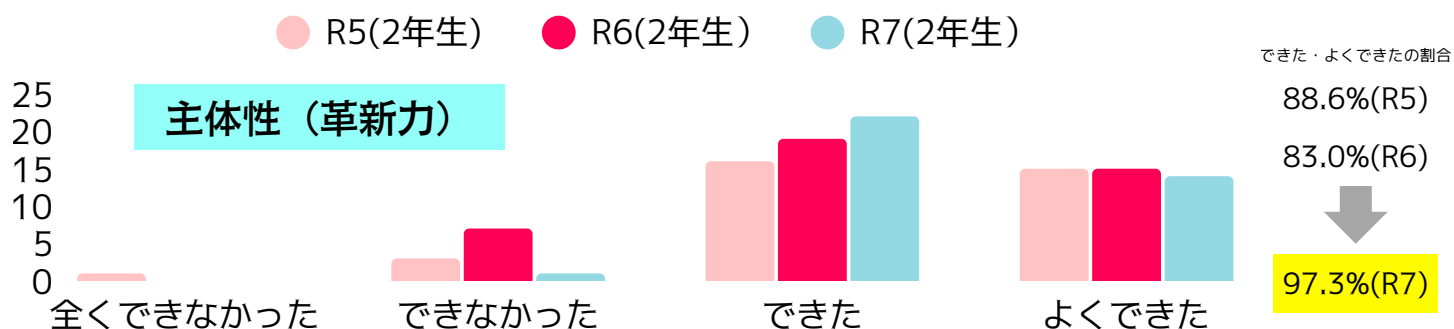
2年生経年比較



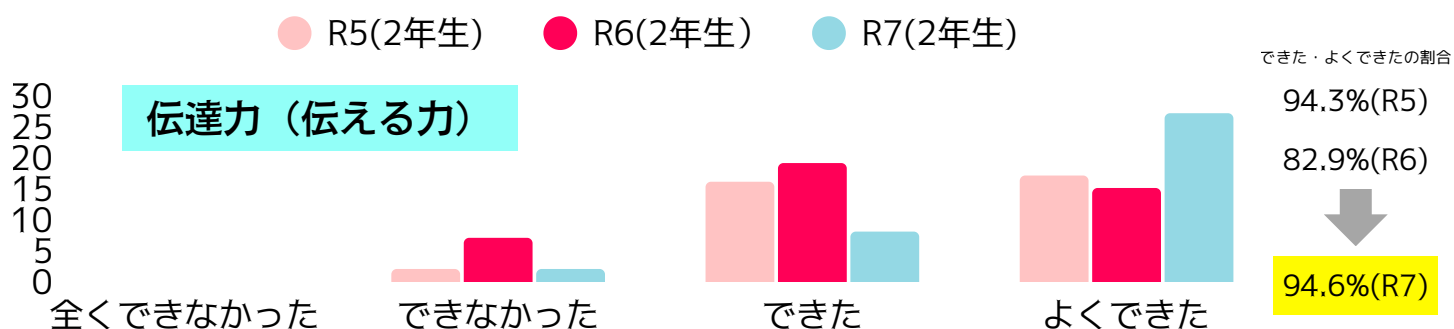
Q. 異なる視点や異なる文化を理解しながら、情報をまとめる力が身についたか。



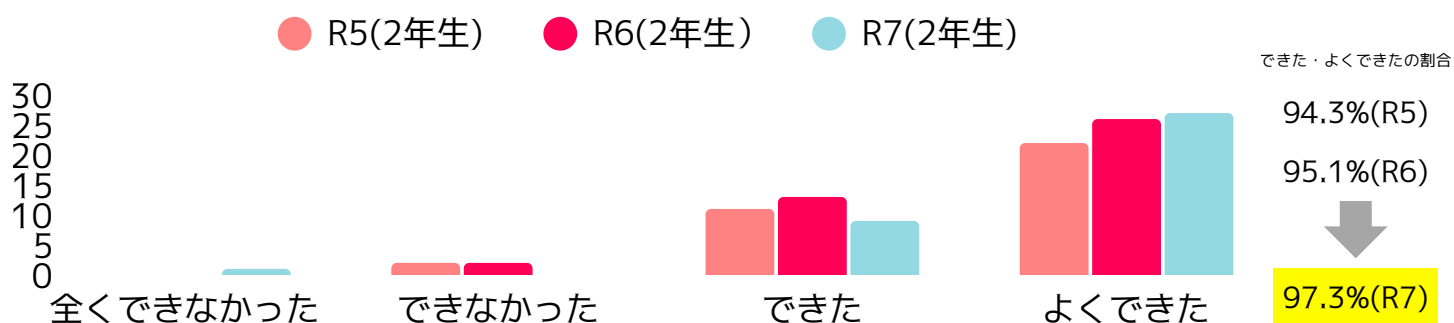
Q. 課題と自分自身との関わりを考えながら、独自の視点で課題解決にアプローチする力が身についたか。



Q. 探究学習の過程で、自分の意見や考えを自分の言葉で表現する力が身についたか。



Q. 探究学習を通じて、自分の成長を感じましたか。



学校と社会 伊丹と世界 学びと学び 現在と未来をつなぎます



伊丹市立伊丹高等学校

〒664-0857 兵庫県伊丹市行基町4丁目1番地

E-mail: co-creation@ichiita.com